

(様式第6号)

長野県みらい基金 事業指定助成プログラム
助成対象事業実績報告書

2025年 11月 14日

公益財団法人
長野県みらい基金 理事長 様

申請者：所在地 松本市浅間温泉 1-4-17
団体名 「わだつみのこえ80年の会」
代表者 職・氏名 代表 塩野英雄

『長野県みらいベース』において当団体が掲載した「事業指定助成プログラム」について、下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業名

戦後80年
特攻隊員を通して、平和を学び、次世代の若者たちに伝えたい
—わだつみのこえ80年の会—

2 助成対象事業の実施期間

2025年4月1日 ～ 2026年3月31日

3 助成対象事業の内容

戦後80年を迎えようとする今、戦争を知る世代が少なくなる中で、長野県内の高校生が上原良司が生きた時代を振り返り、良司を通して戦争と平和について考え、これからの時代を築いていく礎にし、学び考察したことを今後に生かし、次世代に伝えていくため、講演会、生徒の探究発表、シンポジウム等を行った、高校生を含む一般市民約100名が参加した。

4 事業の成果

上原良司について、講演会、高校生の探究発表、シンポジウムを通して、広く市民に知ってもらうとともに、戦争と平和について、じっくりと考える機会にすることができた。多くの報道等でも取り上げていただいた。

5 事業の実施状況を示す書類（添付書類）

項目	チェック欄
助成対象事業収支報告書（様式第6号・別紙）	☒
助成対象事業収支報告書の証拠書類（領収書の写し等）	☒
事業の経過又は成果を証する書類（外部公開可能なもの）	☒
その他参考となる資料（該当するものがあれば必ずお送りください）	☒

※実績報告書および添付書類は、電子データにてメールでご提出ください。

※電子データでの提出が難しい場合は、郵送または持参でご提出ください。

【提出先】

公益財団法人 長野県みらい基金 松本事務所

〒390-0852 長野県松本市島立 1020 松本合同庁舎 2 階

TEL : 0263-50-5535 FAX : 0263-50-6561

E-Mail : matsumoto@mirai-kikin.or.jp

高校生 松本から平和発信



今年の活動方針を話し合う高校生ら

池田出身の特攻隊員・上原良司テーマ シンポジウムや戦跡巡り 計画

松本地域の高校教員や松本市内の高校の生徒らでつくる「わたつみのこえ80年の会」が戦後80年の今年、太平洋戦争中に特攻で戦死した池田町出身の上原良司（1922～45年）をテーマに平和を考える行事を催す。夏にかけて戦争遺跡を巡る学習や、上原に関するシンポジウムを計画。8日は松本深志高、松本県ヶ丘高、松本第一高の生徒計8人と教員6人が市内で集まり、今年の活動を話し合った。

戦後60年、70年にも有志の教員らが集会などを企画し、今回は2年ほど前から準備。教員約10人と有志の生徒約10人が参加

1945→2025

戦後
80年

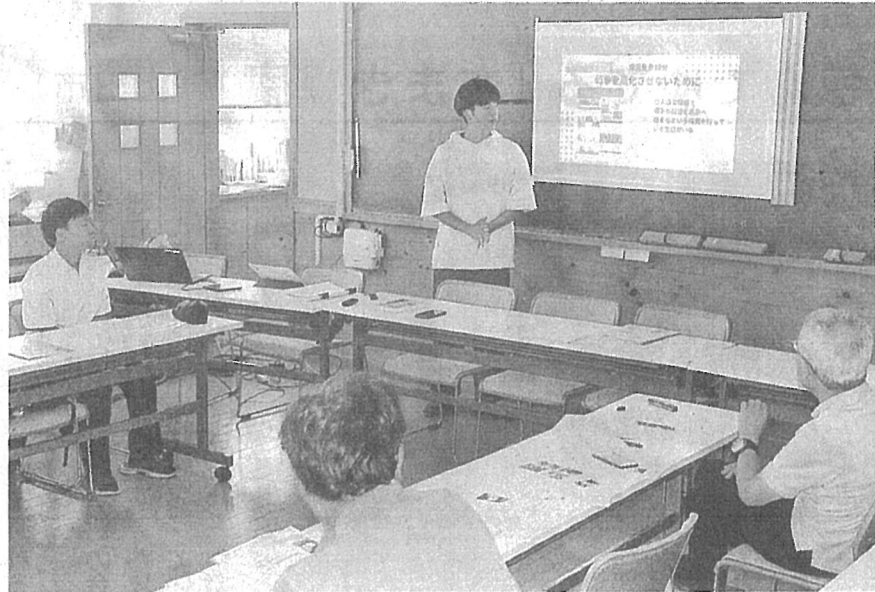
し、高校生の意見を生かして具体的な活動を考えていく。

6月に松本地域の戦跡巡りをし、8月9日に上原の生家を見学する。同23日には「わたつみのこえ戦後80年のつどい」と題し、太平洋戦争の戦跡の撮影を続ける写真家安島太佳由さんの講演や高校生による研究発表、シンポジウムを開催。戦跡の保存などに取り組む他団体との連携も広げる考えだ。

松本深志高1年の望月美里さん（16）は、中学時代に訪れた広島平和記念資料館（広島市）で外国人の表情が変わるのを見て「戦争の悲惨さを伝えるのに言語の壁はない。自分も学んで発信したい」と参加を決めた。松本第一高2年の宮入彩さん（17）は戦争映画を見て興味を持ったとし、「実際の特攻隊や戦争がどうだったのか調べ、平和について考えたい」と話した。

4月中旬に会のホームページを立ち上げ、上原の情報や会の活動を発信していく。今後、活動資金の確保のためにクラウドファンディングを始める予定だ。

中南信

1945↓2025
戦後80年「戦争とは」
学び伝える

戦争をテーマにした発表のリハーサルを行った高校生ら

松本の高校生 来月の発表向けリハ

松本地域の高校教員や高校生らでつくる「わだつみのこえ80年の会」が26日、8月に開く「わだつみのこえ戦後80年のつどい」に向けた発表のリハーサルを松本市内で行った。同会は、太平洋戦争中に特攻で戦死した池田町出身の上原良司をきっかけに、戦争や平和について学習を進めている。この日は高校生9人が松本第一高校に集まり、それぞれが学習を通じて戦争について考えたことを紹介した。

松本深志高2年の望月美里さん(16)は「子どもを主人公にした戦争小説が少ない」と考え、特攻に向かった青年を描い

た小説を執筆していると報告。子どもが同調圧力の中で疑問を持たずに戦争へ巻き込まれたとし、今は「周りの意見を聞いて尊重することが大切だ」と訴えた。

松本県ヶ丘高3年の滝沢葵さん(18)は、戦時中に撮影された写真を専用サイトでカラー化し、市中央図書館で展示していることを紹介。白黒写真や現存の建物の写真と並べることで「戦争の記憶を未来に引き継ぐことができた」と語った。

同会は8月23日午後1時から深志教育会館(松本市)でつどいを開き、高校生が学習した成果を発表する。

市民タイムス

発行所/市民タイムス:本社 〒390-8539松本市大字島立800番地
TEL (0263) 受付47-7777 編集47-7774 広告48-2000 販売47-4755 ©市民タイムス2025年
FAX (0263) 受付48-2422 編集47-1654 広告47-8585 販売48-2422 支社/安曇野・道民 支局/長野・木曽

7月28日(月)

上原良司の思い 次世代へ

高校生ら戦争考える 8月に 発表会

戦後80年に合わせて中信地区の高校教員や高校生らでつくる「わたつみのこえ80年の会」は、太平洋戦争末期に自由と尊厳を主張しながら特攻死した池田町出身の上原良司（1922〜45）を通して戦争と平和について考え、次世代へ継承する活動に取り組んでいる。生徒たちが各校で探究活動を進めながら体験学習などを行い、8月23日に「わたつみのこえ戦後80年のつどい」と題して成果発表や戦跡写真家の講演などを計画している。

（鎌倉 希）

戦後80年

戦後60年、70年に続く取り組みで、2年ほど前から準備を始め、昨年から松本市内の高校に通う生徒有志も参加。6月に高校生の発案で市内の戦跡巡り

をしたほか、8月9日に安曇野市穂高有明の家など上原ゆかりの地を訪ねる「追体験学習」を計画する。

26日は松本第一高校で「つどい」に向けた準備会が開かれ、教員らと同校、松本県ヶ丘、松本深志の3校の



つどいの内容などを確認した準備会

生徒9人が集まった。つどいで発表する生徒が現時点の内容を紹介して助言を受け、戦跡の撮影を続ける写真家・安島太佳田さんの基調講演や、安島さんを

交えたシンポジウムなど当日の予定を確認した。

憶をつなぐ探究成果を発表する。会では他校の生徒に刺激を受けたという「多くの人に自分の活動や戦争のことを知ってもらえれば」と願う。松本第一の3年生・赤羽颯さん（18）は「上原良司などから戦争が身近にあったと実感した。ぜひ高校生と一緒に考えてほしい」と話している。

つどいは参加自由で、23日午後1時から深志教育会館（松本市蟻ヶ崎3）で開かれる。9日の追体験学習も一般参加を募り、午後2時に有明駅（安曇野市穂高北穂高）集合。参加無料で申し込みは8日まで。問い合わせは事務局の松本第一高校（☎0263・46・0555）へ。

上原良司ゆかりの地 巡る

穂高の育った家や 池田のモニュメントへ 「80年の会」が追体験学習

上原良司が育った家を訪れ、幸一さん(右)に話を聞く参加者たち



戦後80年

太平洋戦争末期に特攻死した池田町出身の上原良司(1922〜45)を通して戦争と平和について考え、次世代へ継承する活動に取り組む「わだつみのこえ80年の会」(塩野英

安曇野市穂高有明にある上原が育った家では、おいの幸一さん(77)から写真や宿題帳、飛行訓練の記録、

軍服などを見せてもらいながら話を聞いた。参加者たちは食いつまみ入るように遺品などに見入って子供時代や入隊後の様子に思いをはせ、質問もしていた。

上原が出撃を控えた田川高校2年生の宮川綾華さん(17)は

「戦争や昔の人のこと、各校での探究活動のほかに生徒発表で松本市内の戦跡巡りなどを実施。23日に「わだつみのこえ戦後80年のつどい」と題して探究の成果発表などを予定している。

「戦争や昔の人のこと、各校での探究活動のほかに生徒発表で松本市内の戦跡巡りなどを実施。23日に「わだつみのこえ戦後80年のつどい」と題して探究の成果発表などを予定している。

(鎌倉 希)



探究活動の成果を発表する高校生

平和探究 高校生が発表

わだつみのこえ80年の会 松本の集いに市民100人

中信地区の高校教員や高校生らでつくる

「わだつみのこえ80年の会」(塩野英雄代表)は23日、松本市蟻ヶ崎3の深志教育会館で「わだつみのこえ戦後80年の集い」を開いた。太平洋戦争中に特攻死した池田町出身の上原良司(1922〜45)をきっかけに戦争と平和について学んできた活動成果を高校生が披露し、市民ら約100人が耳を傾けた。

(鎌倉 希)

戦後80年

松本第一、松本深志、松本県ヶ丘の3校活動。太平洋戦争やロシアによるウクライナ侵攻などの原因や概要を動画にまとめ「戦争のきっかけには共通点がある。それを知って

いても繰り返されるのはなぜか、考えてもらえれば」と投げ掛けた。

第一は身近な戦跡や戦争加害国としての日本の側面について、県ヶ丘は個人の探究成果や、相手の立場で主観的に考える「エンパシープロジェクト」について紹介した。

続くシンポジウムでは生徒や教員、基調講演した戦跡カメラマン・安島太佳由さんらが登壇。生徒は「考えの違

ることが大事」「活動を通じ戦争について考えるきっかけが広がる」と話していた。会は2年ほど前から準備し、戦争と平和について考え、次世代へ継承する目的で活動してきた。発表した深志の2年生・中澤千明さん(17)は「他校の生徒の意見に触れて探究が充実した。若い世代として今後も発信していきたい」と話していた。塩野代表は「高校生が自分の思いを意欲的に発言してくれたこ

とがうれしい。今後もうつないでいく活動にできるかどうか勝負となる」と力を込めた。

松本で高校生ら 非戦の思い新たに

1945→2025
戦後80年

松本地域の高校教員や高校生らでつくる「わだつみのこえ80年の会」が23日、松本市の深志教育会館で「わだつみのこ

え戦後80年の集い」を開いた。太平洋戦争の戦跡を撮り続ける写真家安島太佳由さん(66)＝東京都＝の講演やシンポジウムなどがあり市民ら約1000人が聴いた。

同会は戦後80年に合わせ、太平洋戦争中に特攻で戦死した池田町出身の上原良司をテーマに学んできた。安島さんは、「自分は最後まで自由主義だということ、権力主義や全体主義の国は最後は敗れるということを行っている」と強調した。

安島さんや高校生が参加したシンポジウムには「特攻文学論」の著作がある帝京大学教授の井上義和さん(52)も登壇。「上原のような『自由』への言葉を持たず、特攻に行った若者の気持ちにも思いをはせて」と投げかけた。

松本第一高校、松本深志高校、松本県ケ丘高校の生徒は、戦争や平和を巡る各自の学びを発表。松本第一高校の7人は、捕虜の扱いなど日本の加害にも注目し、「二度と戦争に関与してはならないという気持ちを持ちたい」と結んだ。

池田出身・上原良司もテーマに講演やシンポ



安島さん(左から2人目)や井上さん(同3人目)、高校生らが登壇したシンポジウム

特攻隊員・上原良司の人生から学ぶ

平和の尊さを忘れないで

松本第一高生



松本市の松本第一高校伝統の平和教育集会が16日、同校であり、全校生徒600人余が太平洋戦争末期に22歳で戦死した池田町出身の特攻隊員上原良司(1922〜45年)の短すぎる人生とその死生観から、今の平和の尊さを学んだ。同校は、運営母体の外語学園を創立した安曇野市出身の政治家で戦争反対を唱え続けた植原悦二郎(1877〜1

スクリーンに映る上原良司の写真の前で、その短すぎる生涯、遺書に込めた思いを語る林さん(右上)。全校生徒が静かに聞き入った。いずれも松本市浅間温泉の松本第一高で

戦後80年
昭和100年

962年の遺志を継ぎ、毎年、「平和」「憲法」「人権」の各テーマで全校集会を開催。平和希求の国際人育成を目指している。

戦後80年の今年の集会は、中信地区の高校教員や高校生らでつくる「わだつみのこえ80年の会」代表を務める塩野英雄校長(64)と、同校で教壇に立つ会事務局長の林直史さん(68)の講演を聴いた。

塩野校長は「身近に居た上原良司を通して県内の高校生に戦争と平和を改めて考えてもらいたい」と80年の会の意義を説明。林さんは知覧飛行場(鹿児島県)からの出撃前夜に上原が記した「所感」という名の遺書から「明日は自由主義者が一人この世から去って行きます」などの遺言を引き、「軍国主義国家にあって最後までその信念を貫き、人間性



戦争と平和の学習成果を発表する2、3年生

の尊重を最も大切にしたい」と評価。「戦争は人の夢や人生を断ち切る最大の人権侵害であり、上原はその象徴的な存在だった」と持論を述べた。

会が8月に市内で開いた「わだつみのこえ戦後80年の集い」に参加した同校3年赤羽颯さん(18)ら2、3年生5人も、戦没者やシベリア抑留、満蒙開拓の犠牲者らをまつる県護国神社や松代大本営といった戦跡を巡り、学んだ成果を発表。「日本は被害国でもあり、捕虜虐待など加害国であることも忘れてはならない。その罪悪感と二度と戦争に参加してはならないという気持ちを持つてほしい」と全生徒に呼びかけた。集会で養った平和観を胸に2年生は12月、沖縄県へ研修旅行に向かう。

(逢沢哲明)

特攻隊員の足跡 巡って考える

9、23日に学習会と講演会

戦後80年となる今年、中信地域の20～60代の教員ら有志が、特攻隊員として出撃し、戦死した上原良司(1922～45年)＝池田町出身＝の人生を通して、若い世代に平和について考えてもらう学習会や講演会を、9、23日に開催する。運営資金を9月末まで、クラウドファンディング(CF)で募っている。(中尾聖河)

上原は旧制松本中学(現松本深志高校)の卒業生。慶応大在学中に学徒出陣し、45年、鹿児島県の知覧飛行場から特攻隊員として出撃し、戦死した。日本の敗戦を予見する遺書が、戦没学生の手記「きけ わたつみのこえ」に収録されたことで注目を集めた。

学習会などを主催するのは、「わたつみのこえ80年の会」のメンバー17人。同会は戦後60年の節目に初め



学習会や集いへの準備を進める同会の塩野さん(左)と林さん(右)＝松本市で

中信の教員ら有志 CF募る

て組織され、戦後70年となる2015年にも集いを開いている。

同会は、戦争の実体験を語ることができる人が減っている今、「若い世代に主体的に考えることを大切にしてみたい」と、会に松本深志高校や松本県ヶ丘高校、松本第一高校の生徒たちを加え、2年前から準備を重ねてきた。

9日には上原が育った安曇野市の家や、母親に別れを告げたと言われる乳房川の橋などを巡る学習会を開催。23日は集いを開き、戦争遺跡を撮影してきた写真家の安島太佳由さんが講演するほか、高校生が学習の成果を発表する。

同会事務局長の林直史さん(68)は「上原さんが生きていたことを無駄にしてはいけない。戦争と平和について考える機会にしたい」、代表の塩野英雄さん(63)は「平和になるためにはどう行動していけばいいのか、高校生が主体的に考える機会になれば」と話している。



CFの寄付はQRコードから。学習会や集いの問い合わせは0263(46)0555へ。

上原良司と「いま」を生きる わだつみのこえ 戦後 80 年の集い



ホームページ QR

80 年前の 1945 年 5 月、安曇野市穂高有明で育った上原良司青年は特攻出撃前夜、自らの心の訴えをつぎのような「所感」という遺書に託して沖縄の海に散華しました。

空の特攻隊のパイロットは一器械に過ぎぬと一友人が言ったことは確かです。(中略)
一器械である吾人は何も言う権利もありますが、ただ願わくば愛する日本を偉大ならしめられん事を、国民の方々にお願いするのみです。(中略)
明日は自由主義者が一人この世から去っていきます。彼の後ろ姿は淋しいですが、心中満足で一杯です。

戦後 80 年を迎えようとする今、戦争を知る世代が少なくなる中で、長野県内の高校生が、上原良司が生きた時代を振り返り、良司を通して戦争と平和について考え、これからの時代を築いていく礎にしてもらいたいと願うのです。戦時中に、人間の自由と尊厳を主張し続けた彼の志と想いを再確認し、学び考察したことを今後に生かし、次世代に伝えていければ良いと考えます。



調布飛行場で「飛燕」と訓練を積む良司（第 56 振武隊）

今後の行事予定

(1) 上原良司をしのぶ追体験学習

2025 年（令和 7 年）8 月 9 日（土）午後 2 時～4 時

（内容）大糸線「有明」駅に集合し、良司の家、乳房川等を見学

(2) わだつみのこえ 戦後 80 年のつどい

2025 年（令和 7 年）8 月 23 日（土）午後 1 時～4 時 深志教育会館（松本深志高校 2 分）

（内容）講演会、シンポジウム、展示等

(3) 高校生による探究活動

（内容）中信地区の高校生の発案による探究的学習（戦争遺跡視察、意見交換等）を計画中



松本中学校（現松本深志高校）卒業時

「わだつみのこえ 80 年の会」

代表 塩野 英雄（現松本第一高等学校校長）

事務局長 林 直史 事務局次長 有馬 総一郎

事務局 松本第一高等学校内（0263-46-0555 林）

問い合わせ先 電話 090-9669-3055（塩野）

ホームページ <https://wadatsumi.wepage.com/home>

（活動の詳細は随時ホームページ等で広報）